

わかかさ

2009

6

特別定価 550円

賞金10万円!
脳が活性化!大人気の健康クロスワード

視力 劇的アップ! 目の悩みが一挙に退く 最先端療法



* 年々衰える視力の若返りこそ脳もボケ・ウツ 寝たきりを防いで切り札
 * 0.1の視力が1.2に向上! 大人も近視が手術なしに回復しアツと驚く通電療法
 * 酷使した目に最適で近視の裸眼視力が老眼の回復例(新)ピンホール眼鏡
 * 近視の人が呼吸 深刻で深い呼吸にNo.1は視力回復3カ
 * 目の酸素不足が 深くて深い呼吸にNo.1は視力回復3カ
 * 目の酸素不足が 深くて深い呼吸にNo.1は視力回復3カ

* 見るだけで眼筋が軽度な半月老眼にも効き眼鏡を手放す人続出の目がよくなる図形
 * 画家に「遠近矯正」を活用し新聞が読めた眼科医も行う 実に老眼体操
 * 白内障は目の濁りを招く酸化原因でかすみ目 ショボつきも雑穀食
 * 疲れ目・ドライアイには 巨薬の多用は逆効果で簡単は眼科も推す おしぼり目枕

特ダネ運搬 シワ 乾燥肌もシミもハイビスカス化粧水

大ブーム! 腰痛ひざ痛も リウマチも急改善! 朝シヨウガ

白内障の最先端手術 を行う病医院リスト付き

視界に黒い浮遊物がチラつく 「飛蚊症」は網膜剝離など眼病の恐れもあり、気になる人は要検査

むらかみ眼科クリニック院長
順天堂大学客員准教授

むらかみしげき
村上茂樹

硝子体にできた濁りの影が浮遊物の正体

明るい場所に出たり、白い壁や青空などを見たりしたとき、実際は目の前に何も飛んでいないのに、黒い点や虫、ゴミのような浮遊物がチラついて見えることはないでしょうか。視線を動かしても、浮遊物がいつしよに移動しているように

見えて、まばたきをしても目をこすつても消えませんが、こうした症状を飛蚊症といえます。

では、この浮遊物の正体はなんでしょうか。

眼球の中の大部分は、ゼリー状の無色透明な物質が詰まった硝子体で占められています。そして、私たちがものを見ると、外部から目に入ってきた光は、角膜（黒目の部分）、水晶体

（目のレンズの役割をする組織）、硝子体の順番に通過して、最後に網膜（目のフィルムの役割をする組織）に届きます。

しかし、水晶体と網膜の間にある硝子体になんらかの原因で濁りが生じると、明るいところを見たときに、その濁りの影が網膜に映し出されます。すると、その影は眼球の動きとともにゆれ動き、まるで目の前に虫やゴミが飛んでいるように見える飛蚊症として自覚されるのです。

目の外側に閃光が走る場合も要注意

飛蚊症を発症する原因はさまざまですが、主に三つのタイプに分けられます。

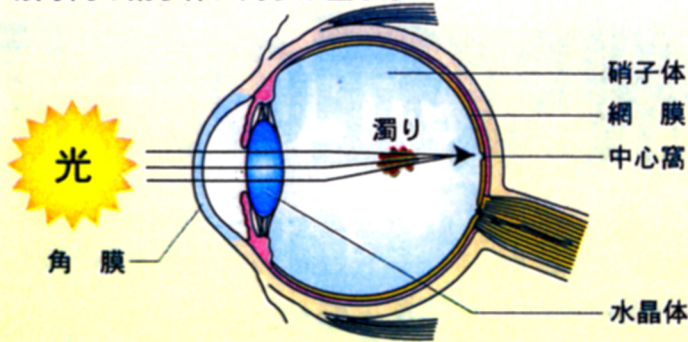
まず、生理的飛蚊症といい、白髪やシワと同様、加齢（年を取ることに）よって硝子体に濁りの現れる飛蚊症が、全体の半数以上を占めています。

二つめのタイプとして、硝子体の濁りのほかに、網膜裂孔や

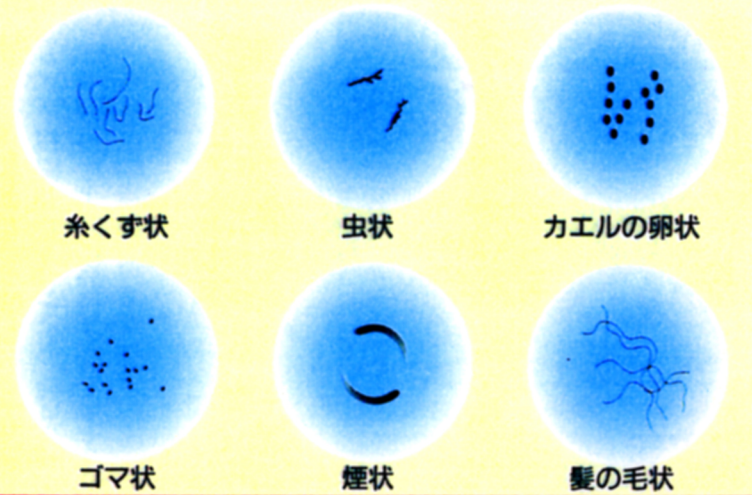


飛蚊症の起こるしくみ

●眼球内の硝子体に濁りが生じる



●飛蚊症で見えやすい浮遊物



網膜剥離を合併していることもあり、放置すると失明を招く恐れもあるため、眼科での早期治療が必要です。

では、網膜裂孔や網膜剥離が生じるしくみを説明しましょう。加齢に伴って、硝子体はゼリー状から液状へと徐々に変化し、萎縮します。すると、硝子体の後ろの部分が網膜からはがれてくる後部硝子体剥離を起しやすくなります。

降のほぼ半数以上に見られる老化現象の一つですが、硝子体と強く癒着している部分の網膜が、いっしょに強く引っぱられると、破れめ（網膜裂孔）や穴を作ることがあります。

この状態から網膜の裏側に水分が入り込むと、網膜がはがれて硝子体のほうに浮き出す網膜剥離を引き起こすのです。

特に、高度近視の場合は、眼球が前後に引き伸ばされて薄くなっているため、比較的若い年代でも網膜裂孔が起こりやす

く、急に飛蚊症の症状が強くなったときは注意が必要です。

また、後部硝子体剥離が起るときに、硝子体と網膜の癒着している部分が互いに引っぱられることで、目の外側に閃光の走る症状（光視症）が現れることもあります。

このように、目の前を飛ぶ黒い点やゴミが増えたり、目の端で閃光が走ったりする場合は網膜裂孔や網膜剥離の恐れがあるので、早期に眼科を受診して眼底検査を受けてください。

なお、網膜剥離の前段階である網膜裂孔の状態で見えれば、その多くはレーザー光凝固という治療で網膜剥離への進行を抑えられます。レーザー光凝固は、ほとんど痛みもなく一五分ほどで終了します。

●●● 飛蚊症を自覚したら 早めの受診が肝心

飛蚊症の三つめのタイプとして、眼底の網膜からの出血や炎症が硝子体の中にまで及ぶこと（硝子体出血という）で飛蚊症を起こすケースがあります。

この硝子体出血を起こす原因で多いのが、動脈硬化や高血圧による網膜静脈閉塞症、糖尿病

性網膜症、それに加齢黄斑変性（二五六頁参照）など網膜の血管の病気によるものです。

これらの病気が慢性化すると、眼球内に新たな毛細血管（新生血管）ができやすくなり、この新生血管が破れて血液も硝子体の中にまで流入すると飛蚊症が生じます。

さらに、ぶどう膜炎（ぶどう膜とは虹彩・毛様体・脈絡膜の総称）という眼内の炎症によつて飛蚊症が起こることもあります。ぶどう膜炎は、さまざまな合併症を併発しやすいため、早期に消炎治療が必要です。

このように、飛蚊症は眼病に伴って現れるケースも少なくないため、放置すると視覚障害に陥る恐れもあります。そこで、飛蚊症を自覚したら眼科を早めに受診し、眼底検査を受けることが大切です。

眼科の学会による調査でも、飛蚊症の患者さんの約一割がなんらかの眼病を合併し、治療の必要があったと報告されています。また、眼病の合併がないと診断された場合でも、後々に遅れて眼病を発症するケースもあるため、定期的に眼科の診察を受けるようにしましょう。